



第 1 回宇都宮市水道料金等審議会

～宇都宮市上下水道事業の概要について～

- 1 上下水道事業の目的
- 2 宇都宮市上下水道事業の概要
- 3 宇都宮市上下水道事業を取り巻く現状と課題
- 4 上下水道事業会計について
- 5 水道事業の財政事情（令和7年度予算）
- 6 下水道事業の財政事情（令和7年度予算）

1 上下水道事業の目的

水道法第1条

水道の布設及び管理を適正かつ合理的ならしめるとともに、水道の基盤を強化することによって、清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善とに寄与することを目的とする

下水道法第1条

流域別下水道整備総合計画の策定に関する事項並びに公共下水道、流域下水道及び都市下水路の設置その他の管理の基準等を定めて、下水道の整備を図り、もつて都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の水質の保全に資することを目的とする



公衆衛生の向上や生活環境の改善、水質の保全を目的としている

2 宇都宮市上下水道事業の概要

■ 上下水道事業のあゆみ

- ・ 上下水道ともに普及率は9割を超え、安全でおいしい水、快適な生活環境が行き届いている。
- ・ 整備に投資すれば、利用者が増加し収入も増加した「拡張」の時代から、更新に投資しても、収入の増加につながらない「維持管理」の時代へ。

水道事業

大正5年3月 通水開始



令和8年3月 通水開始から
110周年

現在 普及率：98.1%

下水道事業

昭和40年8月 処理開始



令和7年8月 処理開始から
60周年

現在 普及率：95.3%

2 宇都宮市上下水道事業の概要

■ 水道事業の概要

○ 水を届けるしくみ



水源

河川の表流水や
地下水より
水源を確保する

川治ダム
湯西川ダムなど
(国所管)



取水

河川や井戸から
原水を取水する

高間木取水場
白沢取水井
など



浄水

原水の濁りや
汚れを除去し
塩素消毒する

松田新田浄水場
今市浄水場
など



配水

浄水場で製造
した水道水を
区域内に配る

戸祭配水場
石那田配水池
など



給水

お客様の元へ

給水人口：約50.1万人
給水戸数：約25.8万戸
(令和6年度末時点)

2 宇都宮市上下水道事業の概要

■ 水道事業の概要

○ 給水区域の概要

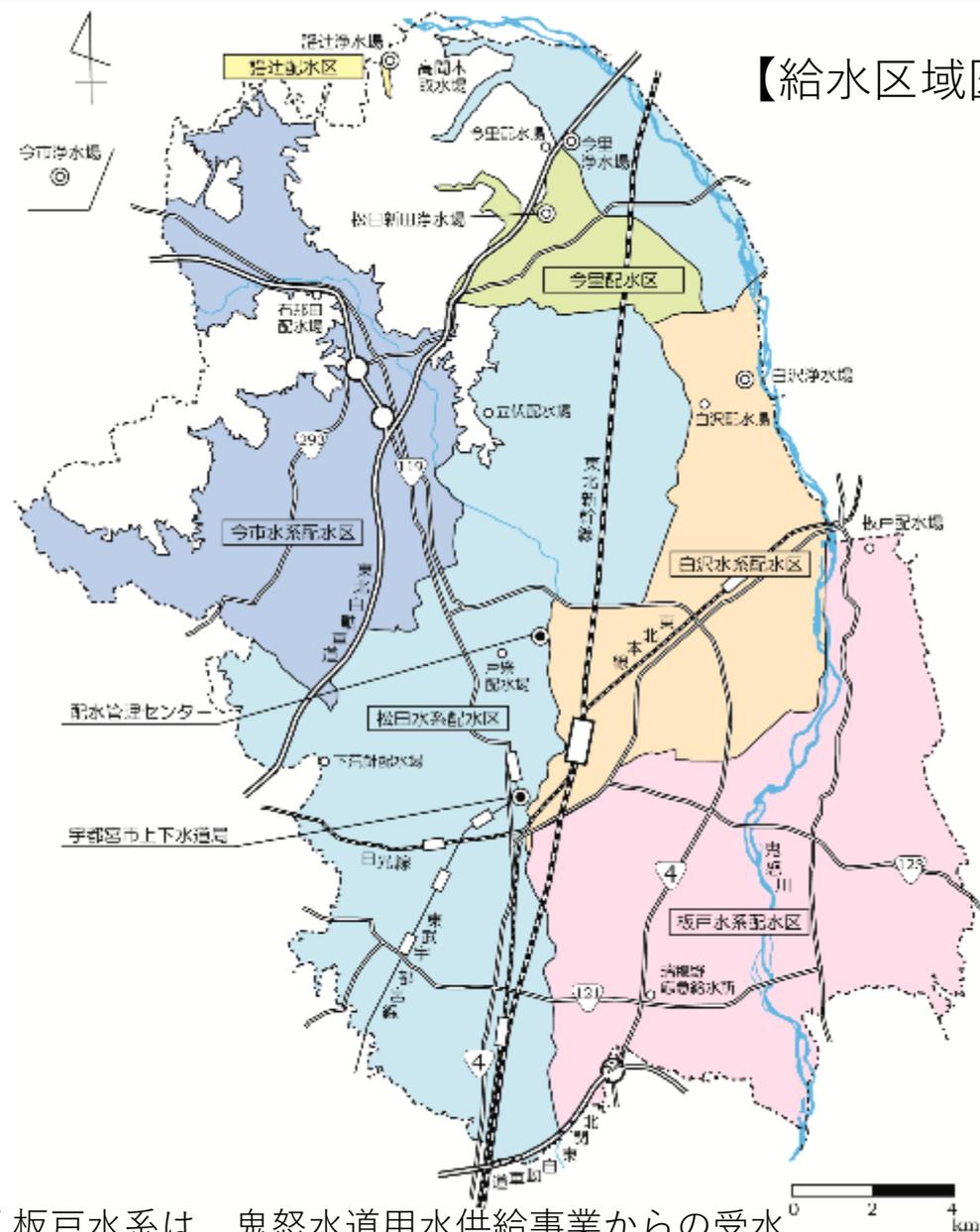
施設名称	給水人口	給水戸数
今市浄水場	38,900人	20,000戸
白沢浄水場	105,400人	54,300戸
松田新田浄水場	288,000人	148,300戸
板戸配水場	66,400人	34,200戸
今里浄水場	2,300人	1,200戸
合計	501,000人	258,000戸

※ 主要施設の概要における給水人口、給水戸数は概算

水源	表流水, ダム, 地下水, 受水	
施設数	浄水場設置数	5施設
	配水池設置数	33施設
管路延長	3,221km	

※ 管路延長は令和6年度末実績

【給水区域図】



※ 板戸水系は、鬼怒水道用水供給事業からの受水

2 宇都宮市上下水道事業の概要

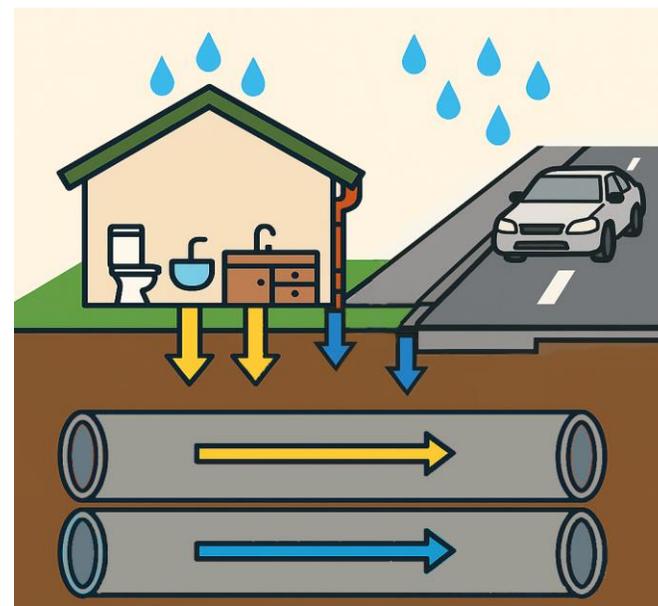
■ 下水道事業の概要

○水をきれいにするしくみ



【合流式】

家から出た汚水と道路側溝で集めた雨水を1つの管で流す



【分流式】

家から出た汚水と道路側溝で集めた雨水を別々の管で流す

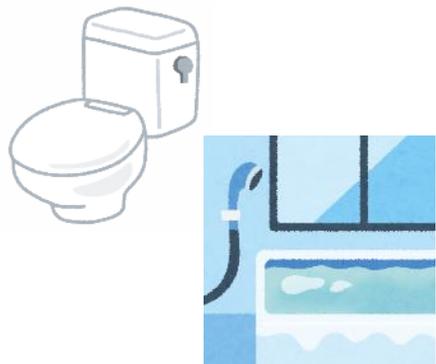
【雨水公費・汚水私費の原則】

汚水の処理に要する経費は使用料で賄い、雨水の処理に要する経費は税金で賄っています。

2 宇都宮市上下水道事業の概要

■ 下水道事業の概要

○水をきれいにするしくみ



ご家庭

排水

くみ上げ

処理

放流

ご家庭のトイレやお風呂から汚水を流す

ご家庭から出た汚水を水再生センターまで送る

地下深くを流れる汚水をくみ上げる

汚水のごみや汚れを除去し塩素消毒する

きれいになった水を川へ放流

水洗化人口：約47.1万人
水洗化済戸数：約21.8万戸
(令和6年度末時点)

汚水管きよ
総延長：約2,766km

石井中継
ポンプ場など

川田水再生センター
清原水再生センター
など

田川
鬼怒川など

2 宇都宮市上下水道事業の概要

■ 下水道事業の概要

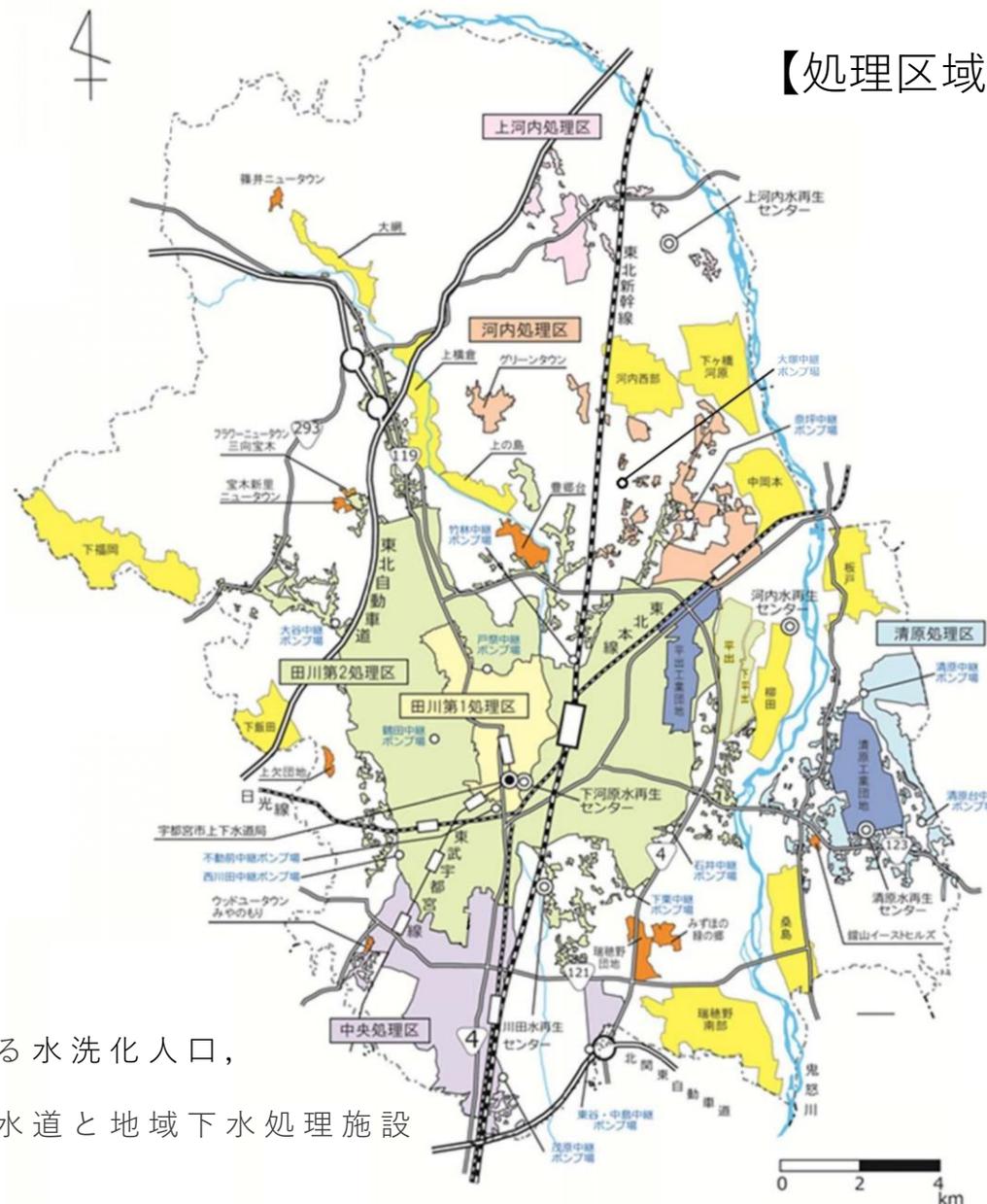
○ 処理区域の概要

施設名 (処理区)		水洗化人口	水洗化済戸数
公共下水道	下河原水再生センター	46,400人	21,800戸
	川田水再生センター	282,700人	132,800戸
	県央浄化センター	66,600人	31,300戸
	清原水再生センター	26,200人	12,300戸
	河内水再生センター	25,400人	10,500戸
	上河内水再生センター	4,200人	1,700戸
地域下水処理施設		11,100人	4,900戸
工業団地排水処理施設		—	—
農業集落排水処理施設		8,400人	2,700戸
合計		471,000人	218,000戸

処理場数	公共下水道	5施設
	地域下水道	9施設
管路延長	2,766km	

※ 主要施設の概要における水洗化人口、水洗化済戸数は概算
 ※ 本審議会では、公共下水道と地域下水処理施設について審議いただく

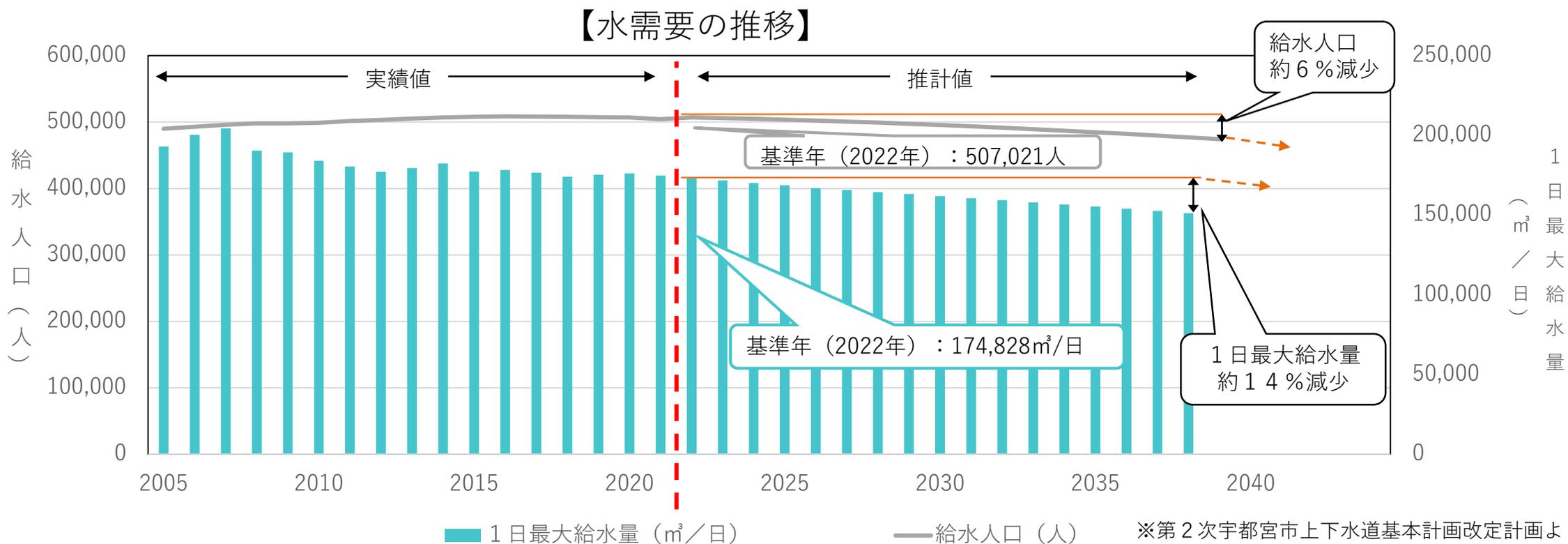
【処理区域図】



3 宇都宮市上下水道事業を取り巻く現状と課題

■収入の減少

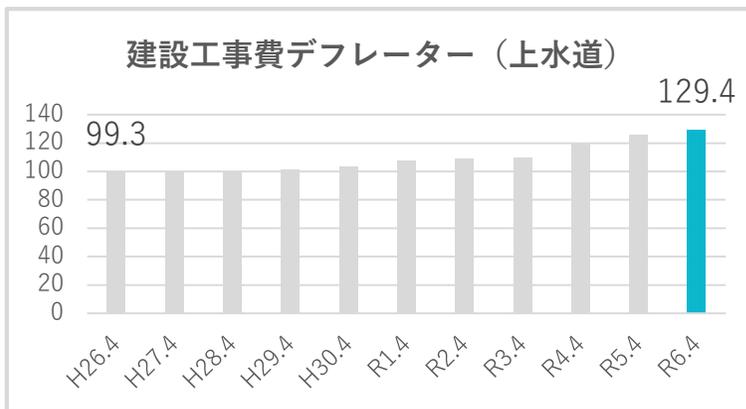
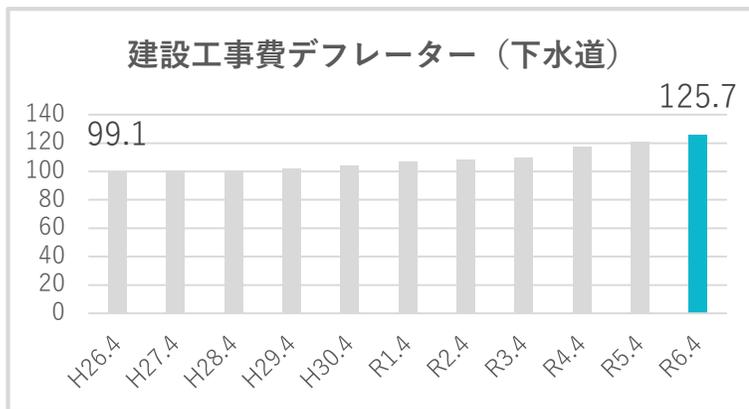
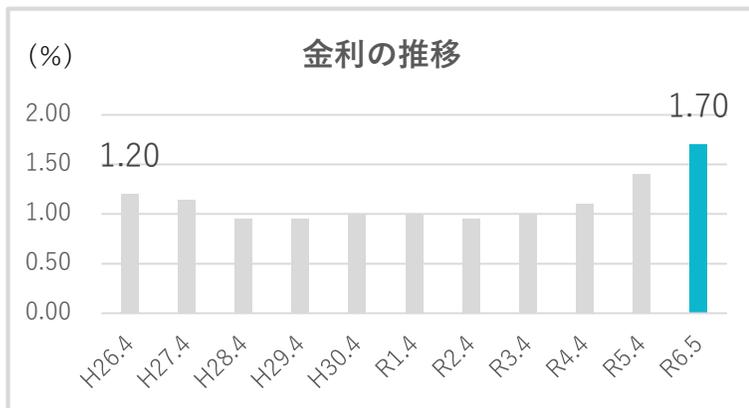
- ・ 節水機器の普及や、ライフスタイルの変化に伴う上下水道の使用状況の変化など、複合的な要因により使用水量が減少傾向にあることや、人口減少による水需要の減少に伴い、上下水道料金収入の減少が見込まれる。



3 宇都宮市上下水道事業を取り巻く現状と課題

■物価等の動向

- 金利，電気代，賃金，工事費は，いずれも近年増加傾向にあり，今後も同様の傾向が継続することが見込まれる。



デフレーター：H27年度を基準（100）とし，建設工事費の変動を把握するための指標

（出典）

- ・金利：日本銀行HP（長期プライムレート）
- ・電気代：資源エネルギー庁HP
- ・賃金：厚生労働省令和6年賃金構造基本調査の概況
- ・デフレーター：国土交通省HP

3 宇都宮市上下水道事業を取り巻く現状と課題

■ 自然災害の頻発化・激甚化

- ・ 近年、全国各地でライフラインを脅かす地震や豪雨などの自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しているなか、災害に強く、強靱な上下水道を確立していくことが求められる。

【近年の主な地震及び豪雨災害】

発生時期	災害名	主な事象	断水戸数
平成28年4月	熊本地震	震度6を超える地震が複数回観測	約44.6万戸
平成30年7月	平成30年7月豪雨	西日本を中心にライフラインに甚大な被害	約26.3万戸
平成30年9月	北海道胆振東部地震	北海道で観測史上初めて震度7を記録	約9.4万戸
令和元年9月	房総半島台風	千葉県を中心に停電や断水が長期化	約14.0万戸
令和元年10月	東日本台風	14都県に災害救助法が適用，死者100人超	約16.8万戸
令和4年3月	福島県沖の地震	宮城県，福島県で最大震度6強を観測	約7.0万戸
令和6年1月	能登半島地震	石川県能登地方を震源とし，最大震度7を観測	約13.6万戸

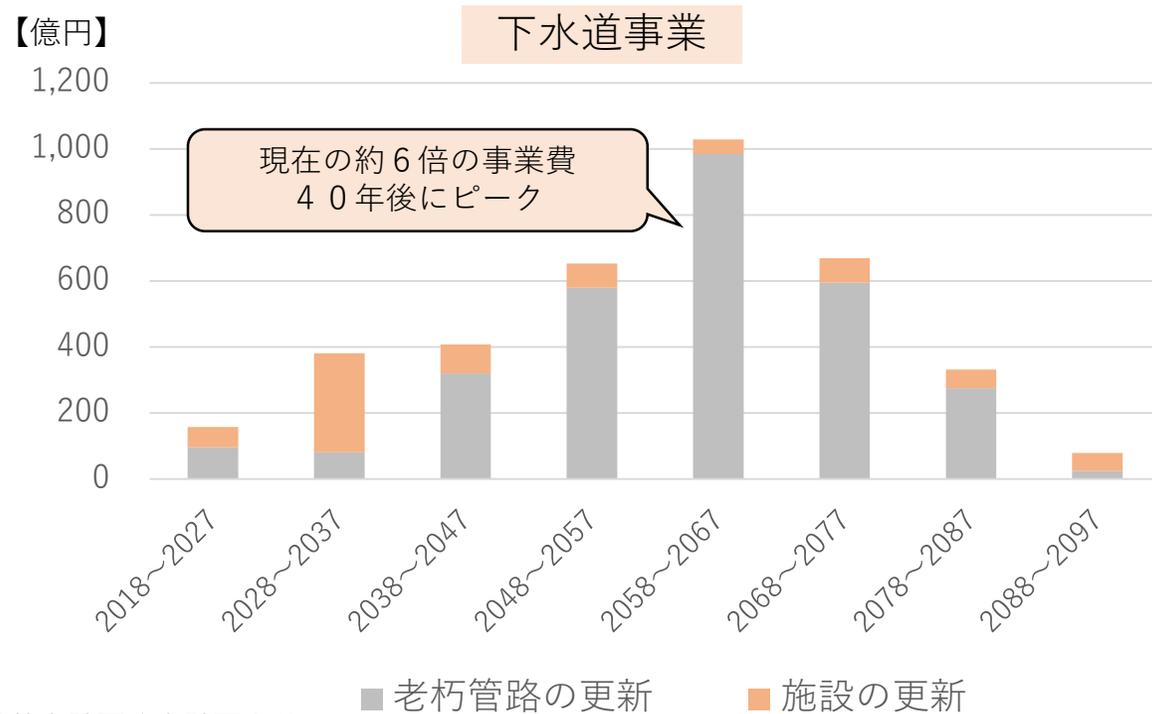
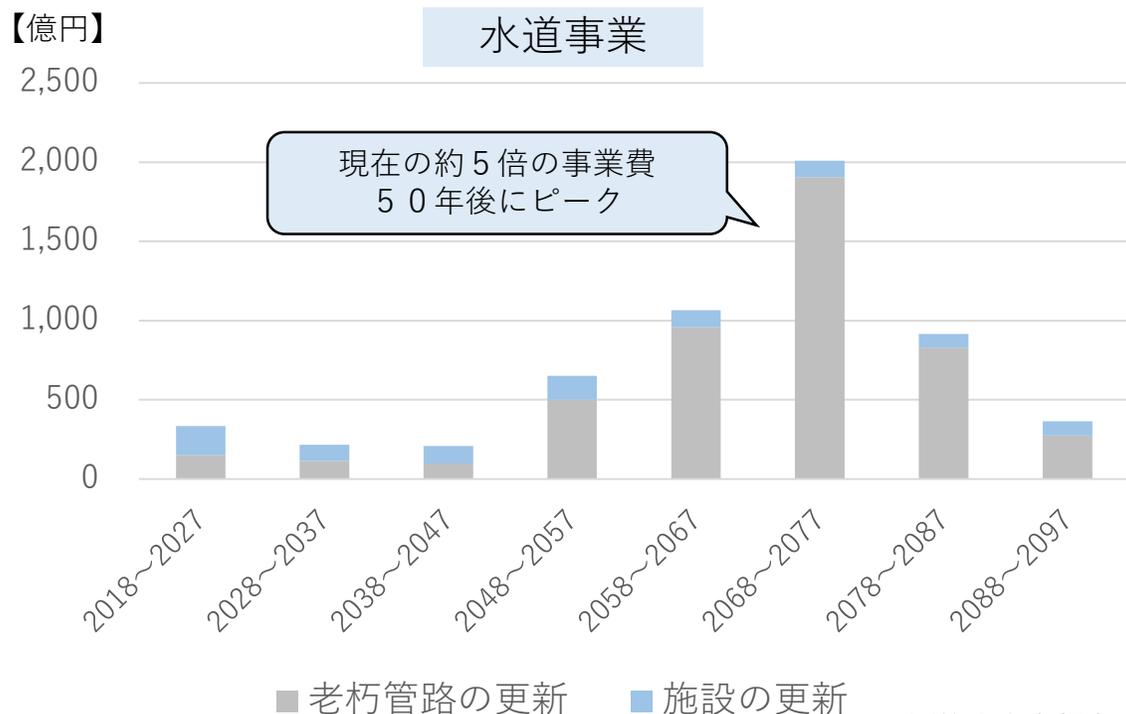
(出典) 厚生労働省会議資料を加筆
断水戸数が多いものを抜粋

3 宇都宮市上下水道事業を取り巻く現状と課題

■更新需要の増大

- 水道事業は給水開始から100年以上、下水道事業は処理開始から50年以上経過しており、今後、更新費用や維持管理費が増加するなど、事業費の増大が想定されている。

【今後の施設・管路の資金需要の見通し】



※第2次宇都宮市上下水道基本計画改定計画より

4 上下水道事業会計について

■ 上下水道事業と公営企業会計

- ・ 地方公共団体においては、いくつかの会計区分が存在しているが、水道事業会計及び下水道事業会計は、公営企業会計に該当する。
- ・ 水道水の供給，下水の処理に関する経費は，一般会計が負担すべき経費を除き「適正な料金」で賄う，独立採算制が原則とされている。

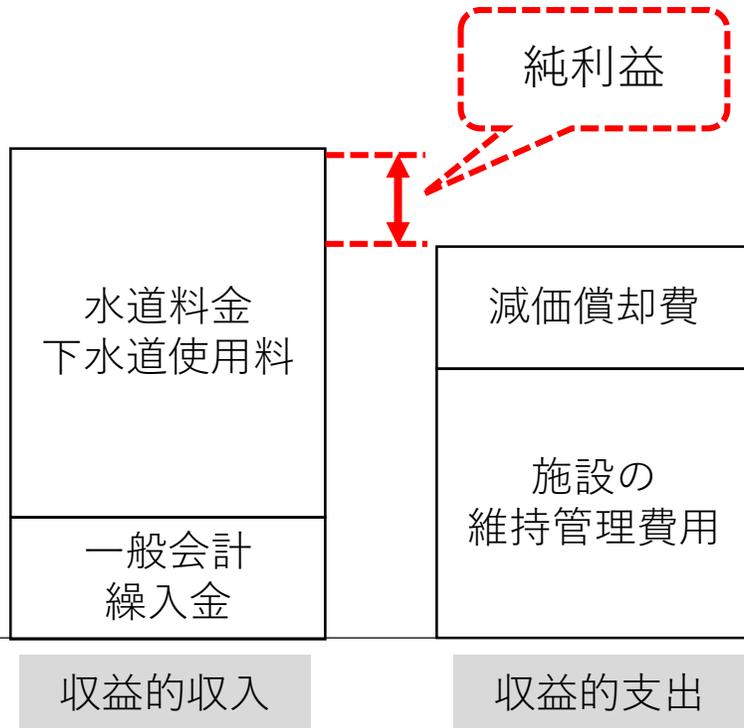
会計区分	概要
一般会計	市税や国からの補助金などの収入を分配し，教育・福祉，道路・公園の整備など，主に市の基本的な行政サービスを行う会計
公営企業会計	事業収入を主な財源として，独立採算の原則により特定の事業を經理する会計（例：上水道，下水道，病院）

4 上下水道事業会計について

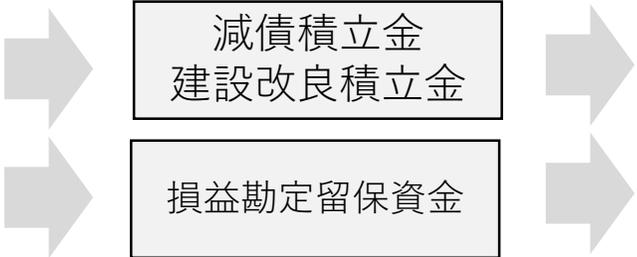
■ 上下水道事業会計の仕組み

【収益的収支】

施設の維持管理に係る取引



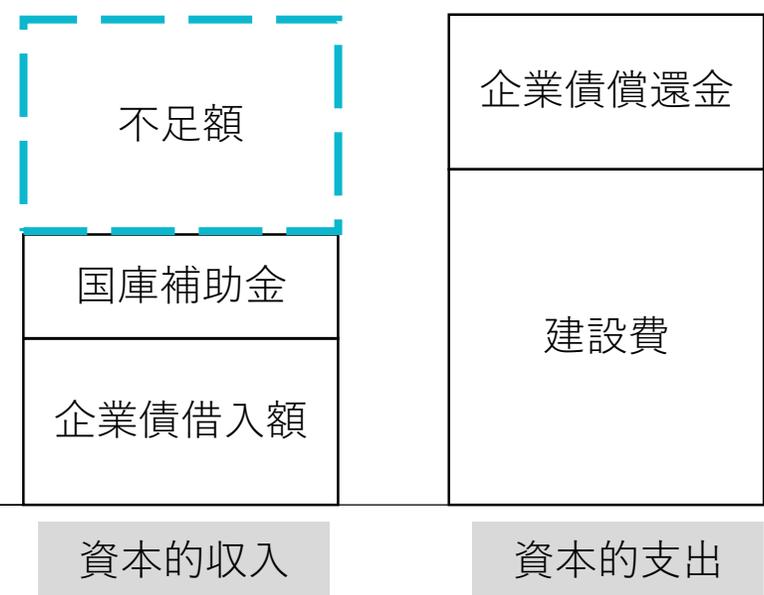
補てん財源
利益(純利益)の積立や、減価償却費の計上によって生じた資金



利益は、施設の建設や更新のための費用となる

【資本的収支】

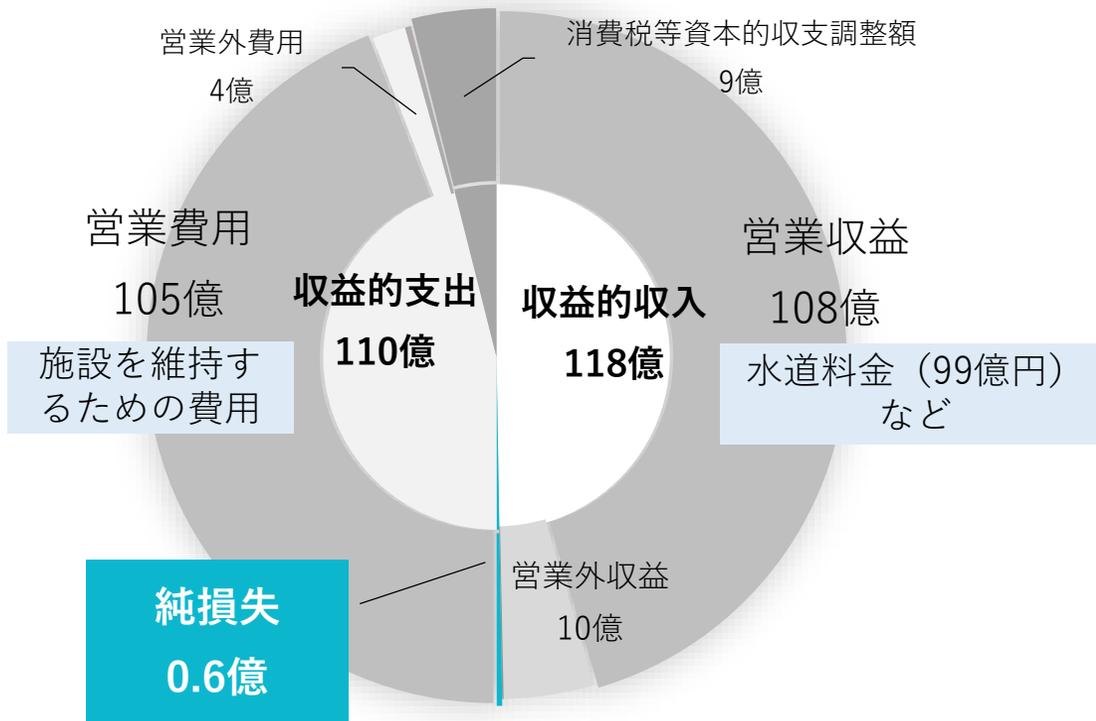
施設の建設や更新に係る取引



5 水道事業の財政事情（令和7年度予算）

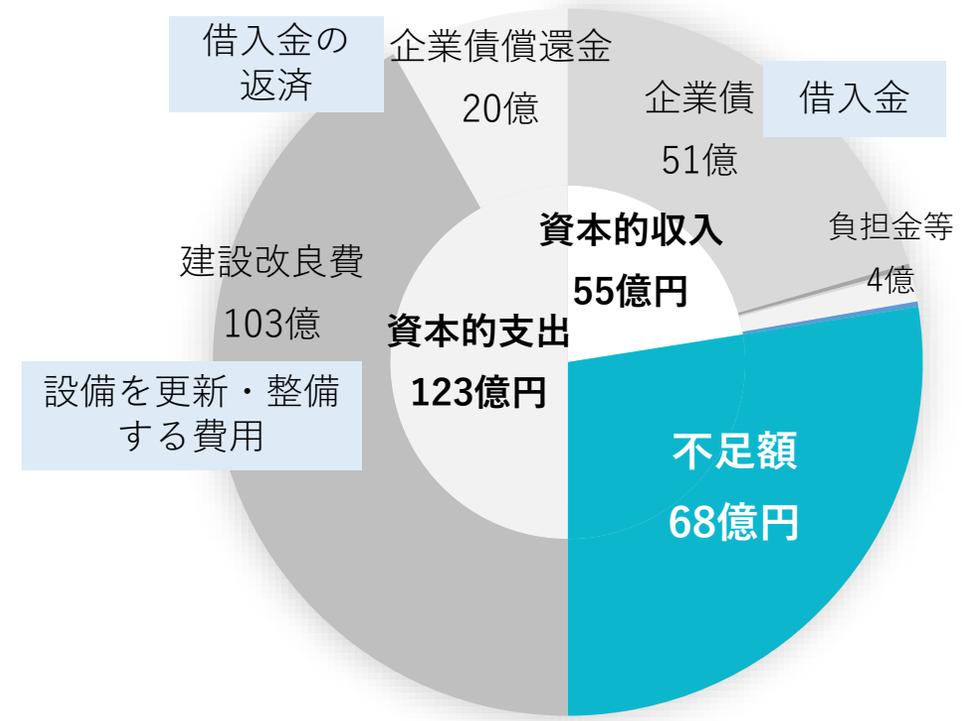
【収益的収支】

施設の維持管理に係る取引



【資本的収支】

施設の建設や更新に係る取引



- ・ 営業収益の多くを占める水道料金収入が減少傾向である一方で、維持管理費は増加しており、純損失が生じる見込み。
- ・ 建設改良事業は各種計画に基づき実施しているが、補てん財源が減少すると必要な事業が滞る恐れがある。

5 水道事業の財政事情（令和7年度予算）

■ 主な実施事業

◆ 災害対策 788百万円（前年度222百万円）

「宇都宮市水道施設耐震化整備計画」に基づき、災害発生時においても被害を最小限にとどめ、一定の配水機能を維持するため、基幹施設・基幹管路の耐震化を推進し、安全で安心なライフラインを確保する。

- 施設耐震化事業・・・松田新田浄水場配水池耐震化工事など
- 管路耐震化事業・・・白沢浄水場導水管耐震化工事など

◆ 老朽化対策 8,814百万円（前年度6,479百万円）

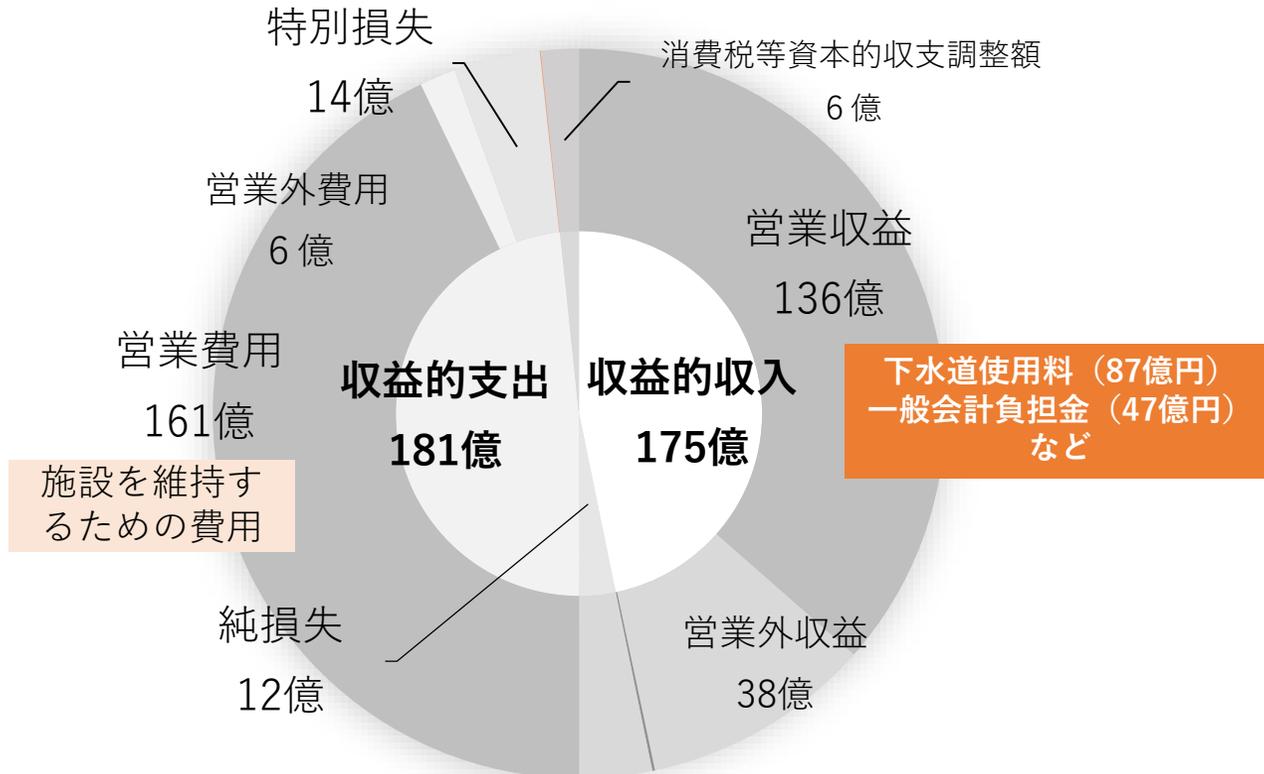
「宇都宮市水道施設更新・長寿命化実施計画」「老朽配水管更新実施計画」等に基づき、持続可能な水道事業を実現するため、事業の平準化を図りながら、老朽化が進行している施設の計画的な改築・更新を推進する。

- 管路更新事業・・・老朽配水管更新工事（20,395m）など
- 施設整備事業・・・松田新田浄水場監視制御設備等更新工事、戸祭配水場配水池更新工事 など
- 漏水対策推進事業・・・漏水多発給水管布設替工事 など

6 下水道事業の財政事情（令和7年度予算）

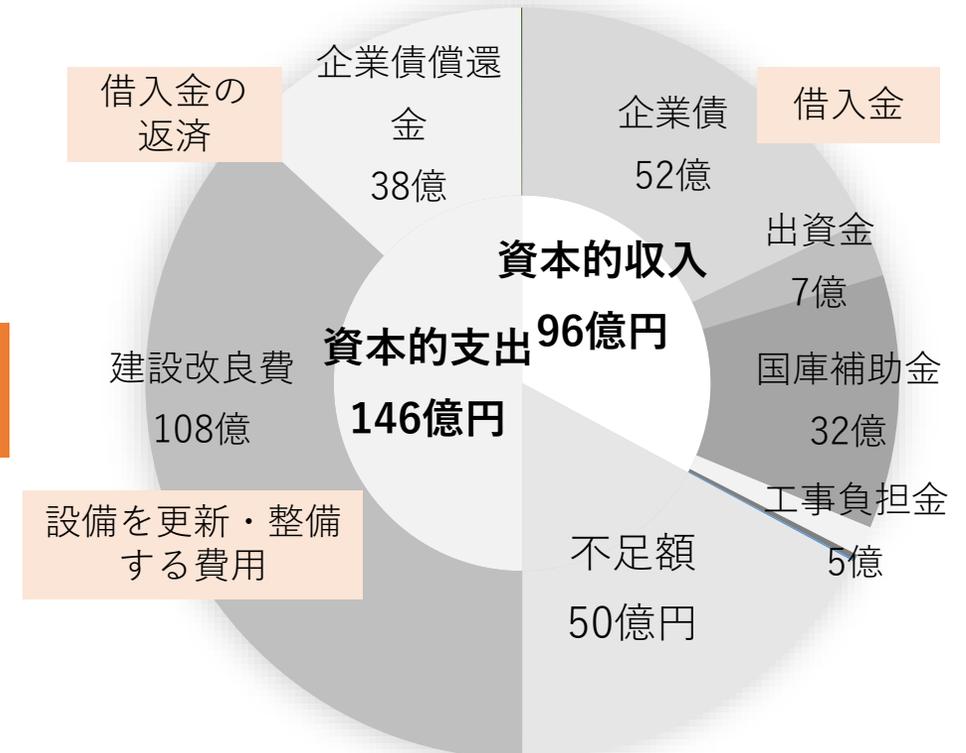
【収益的収支】

施設の維持管理に係る取引



【資本的収支】

施設の建設や更新に係る取引



- 下水道使用料収入は、新規接続に伴い前年比で微増の見込みだが、営業収益の3割以上を占める一般会計負担金も年々増加しており、一般会計に過度な依存をしない経営に向けた使用料のあり方を検討する必要がある。
- 純損失は、施設の解体に伴う支出の大幅な増加による一過性のもの
- 一般会計負担金の内訳として、雨水分の負担金と汚水分の負担金がある。

6 下水道事業の財政事情（令和7年度予算）

■主な実施事業

◆ 災害対策 2, 133百万円（前年度1, 875百万円）

- ・「宇都宮市下水道施設耐震化実施計画」に基づき、施設及び管渠の耐震化を推進する。
- ・「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」に基づき、近年頻発する局所的な豪雨による浸水被害を軽減するため雨水対策事業を実施する。

- 施設耐震化事業・・・竹林中継ポンプ場耐震化工事、管渠耐震化工事など
- 雨水対策事業・・・公共下水道雨水幹線整備事業、雨水貯留施設の設置促進事業

◆ 老朽化対策 4, 819百万円（前年度3, 836百万円）

- ・「宇都宮市下水道施設改築・更新計画」に基づき、持続可能な下水道事業を実現するため、老朽化が進行している施設の計画的な改築・更新を推進する。
- ・また、下河原水再生センターの老朽化を踏まえ、更新経費の縮減や処理の効率化を図るため、中継ポンプ場としての再構築に取り組む。

- 施設更新事業・・・下河原水再生センター再構築（中継ポンプ場化）事業（第1期）など
- 下水道管改築事業・・・管渠改築工事 など
- 浸入水対策事業・・・AIによる浸入水音響調査 など